

第19回 南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会 議事要旨

◆日時 令和6年10月2日（水）14時00分～16時00分

◆会場 南あわじ市役所本館3階 304・305会議室

◆出席者 委員：9名

松坂委員（委員長）、福岡委員（副委員長）、飛田委員、金沢委員、釜井委員
鈴木委員、福成委員、三上委員、草地委員

事務局：4名

総務企画部付部長、ふるさと創生課長、ふるさと創生課係長、ふるさと創生
課課員

傍聴者：1名

◆会議の概要

1. 開 会

委員長あいさつ

2. 協議事項

①南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗管理について

・事務局から南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について説明した。

【委員の主な質問・意見・評価】

●Ⅱ－5 吉備国際大学と連携した地域おこしの促進

（委員）大学生の就職は売り手市場となっていて、淡路島内に残る卒業生が増えにくい状況があると思っている。一方で淡路島の雰囲気が入って就職を希望する学生もいるのでマッチングを上手くやっていければと考えます。

●Ⅱ－9 淡路瓦や淡路手延べ素麺を代表とする地場産業の普及促進

（委員）淡路瓦の利用がかなり少なくなっているように思う。市として何か考えている事はあるのか。

（事務局）関係部署と関係団体でも瓦の魅力を伝えるPRが足りないというところは感じており、対応を検討しているところ。

●Ⅳ－5 「学ぶ楽しさ日本一」のまちづくり

（委員）公共施設の再編については、合理的には分かるが心情的には受け入れにくい。

地域との対話を重視して、やってもらいたい。

(事務局) 地域との対話は重要で、地域との対話を踏まえてより良い結論が出る事が重要と考えている。

②地方創生交付金事業について

・事務局から令和4年度に地方創生推進交付金及び新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して実施した事業について説明した。

【委員の主な質問・意見・評価】

●地方創生推進交付金充当事業

・ふるさと教育による南あわじ市「学ぶ楽しさ日本一」プロジェクト

(委員) アフタースクール事業について、年2箇所ずつ程度増やしていくのか

(事務局) アフタースクールについては、人材の確保等、受入体制が整ったところから開設している状況。受入体制が整えば、年2箇所程度に留まらず開設は可能だが、現状は、徐々に拡大しているといったところ。

(委員) 地域によってバラツキがあるのは、不公平感を感じる保護者もいると思う。子どもたちが全員、機会が得られるよう進めていってもらいたい。

・南あわじ発「人生100年時代の働き方改革」プロジェクト

(委員) 高齢者でも元気な方は多い。働く機会を上手く創出してもらえればと思う。

(事務局) 働く意欲のあるシニア世代の方は多いということは認識しているので、引き続き高齢者雇用の基盤構築を図っていく。

・世界最大級『鳴門の渦潮』を中心とした広域観光ブランディング事業

(委員) うずの幸グルメもあるように、食材は年間通してあるのはわかるので、継続して取り組めるサポートあればいい。

(事務局) 3年間の交付金事業であるので、交付金終了後の自走手段を考えておく必要があると認識している。

・はじまりの島淡路島観光推進プロジェクト

(委員) 観光戦略のなかにサイクリングの普及促進があるが、自転車の事故は表面化してないだけで結構あると思っている。観光客の増加で車の渋滞があるところに自転車が通り抜けてくると、事故の危険がある。地域の住人は危険な場所の認識があるが、島外からの観光客はその認識がないため、危険個所の啓発が必要。

●新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金充当事業

・SGS飼料生産・利用拡大推進事業

(委員) この事業の内容は

(事務局) 輸入飼料が高騰していることから、地域内での飼料生産を増やし、経営の安定化を図ることが目的。畜産農家と耕種農家で構成する団体に対して支援する制度で、畜産農家は耕種農家から飼料を耕種農家は畜産農家から堆肥を供給してもらう循環を生み出し、自走してもらう事を狙いとしている。

(委員) 地域内で循環する取組は良いので、継続して取り組んでもらえればと思う。

・地域間公共交通運行実証事業

(委員) 徳島バスは採算あっているのか。

(事務局) 採算の面は、とれていない。目標人数は5,500人だが利用者は1,687人となっており、まだまだ周知が必要と考えている。

(委員) これまで関東方面へは、神戸方面へ移動してから向かっていたので、利便性は非常に高い。周知を図り、事業が継続できるようになればと思う。

3. 閉 会

○閉会にあたり、委員長よりごあいさつをいただいた。